

事業者排出量削減計画書

(宛先) 京都市長		<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 変更					
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市南区吉祥院落合町15番地		平成23年 9月30日					
		氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) 東レコーテックス株式会社 代表取締役社長 加藤 博恭 (075-691-5191)					
主たる業種	繊維雑品染色整理業						
事業者の区分	京都市地球温暖化対策条例第2条第1項第6号	<input checked="" type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ又はウ <input type="checkbox"/> エ					
計画期間	平成23年4月から平成26年3月まで						
基本方針	基準年度に対して計画期間中の温室効果ガス排出量を年平均9%以上削減する。						
計画を推進するための体制	施設環境部長を中心に環境管理会議において、平成22年度を基準年とする新たな実行計画の進捗管理を実施する。						
温室効果ガスの排出の実績及び削減の目標	温室効果ガスの排出の量	基準年度(22)年度	第1年度(23)年度	第2年度(24)年度	第3年度(25)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	13,353.5 トン	12,106.1 トン	12,106.1 トン	12,106.1 トン	-9.4 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	13,353.5 トン	12,106.1 トン	12,106.1 トン	12,106.1 トン	-9.4 パーセント	
	目標の根拠	・ボイラーの温排水の熱回収と乾燥機類の風量適正化などによる省エネを図り温室効果ガスの削減をする。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度(22)年度	第1年度(23)年度	第2年度(24)年度	第3年度(25)年度	増減率
	工場	事業活動に伴う排出の量(DMF回収量)	9.61	8.71	8.71	8.71	-9.38 パーセント
		事業活動に伴う排出の量					パーセント
	原単位の指標及び目標の根拠		・主要原料であるDMFは生産量にリンクしているため、これを精留塔で回収している量を原単位の指標とした。				
重点的に実施する取組の実行計画	基準年度(22)年度	第1年度(23)年度	第2年度(24)年度	第3年度(25)年度	備考		
	0.0	108.0	108.0	108.0			
具体的な取組及び措置の内容	(23)年度	温排水の熱回収					
	(24)年度	乾燥機等の風量適正化等					
	(25)年度	その他放熱対策など					
通勤における自己の自動車等を使用することを控えるために実施しようとする措置	措置の内容	・バイク、車通勤の許可制実施と公共交通機関への切り替えを推進する。					
	上記の措置を採用する理由	・現在のバイク、車通勤に対して制約が無い。22年度から許可制を試行した所、当該通勤が減少した。					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減する量	区分	第1年度(23)年度	第2年度(24)年度	第3年度(25)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	トン	トン	トン			
	地域産木材の利用によるもの	トン	トン	トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	トン	トン	トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	トン	トン	トン			
	温室効果ガス排出量の削減効果分又は温室効果ガスの吸収効果分の購入によるもの	トン	トン	トン			
	合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	・社内外に花などを植える、地域の清掃活動を行っている。						
特記事項	・基準年度をH22年度にした理由は、比較的安定した生産量で有ったため。						

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「細分類番号」とは、統計法第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。  
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の三年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。  
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。